

# 釣れ釣れなるままに

2012年思い出の釣行記 PART. 3

# 大漁旗をなびかせて 鹿島釣狂

## 大漁旗をなびかせて

岩見沢釣遊会第3回大会が6月3日、笛舞港～エリモ岬港で交縁会との合同大会として開催された。数日前から晴天が続き、大会当日も風がなく風で暖かく大変釣りやすい状況だった。今までの太平洋は6月過ぎてからというもっぱらの通説だったが、最近は5月の中旬から太平洋目指して大会を開催する釣り会が増えてきた。そしてそれなりに釣果を上げている。釣遊会も6月大会を初旬に設定することが多くなってきた。今回の潮回りも大変よくて明け方8時の最干潮に向かって岩場に前進しての釣りが可能である。5月に開催された北海道釣名人会の大会では東歌別、坂岸、歌露での釣果がよかったことから、今日もこの界隈に釣り人が殺到することが予想された。昼食会場を手配していると、いつも利用しているラーメン店は札幌北支部のバスが3台も入り、受け入れることが出来ないという。仕方なくインターネットで調べて大型バスも駐車できる浦河の「松井」という海鮮食堂に予約した。そして、他会と競合してしまうので、少しでも早く釣り場に立ちたいという一部会員の強い願いで、出発時刻を6時に設定したのだが、結局いつも通り7時近くになって出発し、途中バスの不具合などもあって現地に到着出来たのはいつもより遅い時間となってしまった。

私はいつもの通り東歌別で嵐氏と一緒に下りていった。各舟揚場には釣り人が満杯の状態、防潮堤の上から溝に向かって打つことになった。そこでカジカ25cmが来た。続けて同じようなサイズのカジカ、そして、右方向に中投していた竿から35cmほどのものがあがった。ハゴトコも来て一応の規定の魚はそろった。これはいつものパターンなのだが、それからがよろしくない。遠投に出るはずのアブラコが全然来ないのだ。

暇な時間をつぶす。潮が引いてきたのだが私が得意とする十八番の岩にはまだまだ上がることが出来ない。耐えきれなくなって左に連なる平盤に向かった。ここは潮が引いてきており、少し小高くなった盤に乗って打ち始めた。ここで35cm強のカジカが出た。そしてアブラコも何とか40cm強がでた。

### 審査結果

優勝	小野田正男	1562点	(アブラコ500mm+カジカ 404mm+6580g)	油 駒
準優勝	堀内正博	1493点	(アブラコ495mm+カジカ 368mm+6300g)	日勝大和
3位	前野達志	1435点	(アブラコ439mm+カジカ 400mm+5960g)	歌 露
4位	川原要四郎	1372点	(カジカ 444mm+アブラコ397mm+5310g)	東 歌 別
5位	吉井 博	1334点	(アブラコ416mm+カジカ 410mm+5080g)	西 東 洋
身長優勝	岩本 満	1421点	(アブラコ497mm+カジカ 337mm+5870g)	油 駒

総合優勝を果たした小野田氏は油駒の湾洞に入り、50cmを頭に大物のアブラコを揃え、40cmを超すカジカを嫁として1562点をたたき出した。小野田氏と共に入った岩本氏も49.7cmのアブラコを釣り上げて身長優勝を獲得した。総合でも1421点で4位入賞の成績である。

準優勝の堀内氏は彼が最も得意とする日勝大和に入り、暗い内にカジカをとり、明けてからもアブラコの大き物を爆釣した。嫁にしたカジカは、アカハラでも釣れてくれればと、釣り場から離れたところに打ち込んで置いたゴロ天秤にかかったということだ。そろそろエサを取り替えようとあげてみたらカジカが付いていたというのだから羨ましい。49.5cmのアブラコは高い防潮堤の上では取り込むことが出来ず、一旦、下の砂浜に引きずり上げておき、荷揚げ階段から回り込んで取り込んだのだ。明けてからも似たようなアブラコが竿を揺らしたのだが、隣で釣りをしていた若い釣り人も大物アブラコを連発していたらしい。

3位の前野氏は、暗い内に歌露にある得意の溝でカジカを8本ほど連発し、明けてから平盤の前に出て、アブラコを20数本釣り上げたが特別な大物には巡り会えなかった。前野氏の釣り場前にある普段は乗れない岩に上がった若い釣り人もアブラコを連発していたらしい。

大会参加者18名の内、1300点以上が6名という大釣りだ。横澗で空振りしたが1334点を獲得した吉井氏だったが、この点数なら普段なら優勝という二文字が見えてくるのだが、6位に甘んじてしまった。私はというと1210点で残念ながら9位だった。さて来月はどうであろうか？ 今月に引き続いて・・・ ウン、ウン、ウン。



本日の私の釣果



皆さん大物釣りを堪能し、昼食会場でも談笑が続く

### 大楯でのカレイ釣り

6月10日、砂浜でのんびりと竿を振りたいという思いで小平町花岡、大楯海岸に向かった。釣り新聞では今まではあまり釣果は上がっていなかったが今週あたりが狙い目だと告げている。午前0時に身支度を調べて岩見沢をスタートした。エサはイソメでロケットカゴ用のアミブロックを1個用意しただけで荷物も軽い。仕掛けは市販のものであれこれと迷うこともない。

花岡海岸まで来ると、砂浜にギョギョライトが光っていた。駐車帯に一旦車を止めて様子を伺うと、波も全くといっていいほどなく、風も和いでいる。一带は国道から砂浜までの高さがあり簡単には下りられないが、一カ所だけテトラポットを伝って下りることが出来るようにとロープがかけられていた。そこから下りて竿を出している人に様子を聞いてみた。カニばかりで駄目だ。夕方からやっているが釣果はなく、カニがエサをいたずらしてすぐになくなるという。

先へと進むと、ギョギョライトがずらりと並び、空き地を利用した駐車帯には多くの車が並んでいた。やはり道路縁のガードレールにロープが掛けられて、その下に大きな流木が土台として立てかけられているところから下りてみた。釣り人に声を掛けると今釣れ出したらしい。まもなく沢山の釣り人がやってきて入れなくなるのですぐにでも準備した方がいいよというので、隣に入れてもらうことを告げて荷物を取りに戻った。

時刻は3時、まだ暗いので2本の竿にギョギョライトを付けて遠投した。すぐに明るくなってきたので、ロケットカゴに赤アミを入れて中投した。それに真ガレイと砂ガレイがダブルで来た。これかと思いき、もう1本の竿を取り出して同じように中投した。すぐに小さなアタリが続いたが魚が乗らない。竿を手に持ち小さなアタリに糸を送り込んでから合わせると大きな引き込みで魚がかかった。しかしその小さなアタリの犯人はアカハラだった。先に入っていた釣り人も遠投に大きな真ガレイが来ると教えてくれたので、ロケットカゴを外して総て遠投に切り替えた。

私の左側にもサクラマス狙いのルアーマンが並ぶようになった。河口にいた釣り人が魚を掛けたので行ってみると50cm台のアメマスだった。彼は今シーズン14本のサクラマスを上げたらしい。

その後、ポツラポツラとアタリが出て10時の竿上げまで手の平大のカレイが14枚となった。アカハラ2本だけはその場で頭を落として太平洋のカジカ用にと確保した。私を隣に誘ってくれた和田哲男氏（滝川市）は雰囲気の良い柔らかな紳士だった。手の平級真ガレイ11枚の釣果だった。和田氏のさらに右隣に入った柏 悠太氏（美唄市）は、超遠投でダブル、ダブルと釣果を伸ばしていた。道具立ては並継ぎスピンプワー405にキススペシャルを装備したものだ。イソメは釣りに出かける前に一塩して生のよさを残しながら遠投にも耐え得るものにしており、私が引き上げる時には、カレイ24枚の釣果だった。目標は30枚と設定して達成するまで粘り、お昼には奥様とお子さんが来て一緒に焼き肉を楽しむらしい。彼の連絡番号を携帯電話に入れるために操作していると、「親父は何も出来ない。」と話された。自分も携帯電話の操作は苦手だが、彼の父親と同じ年代に見られていたらしい。相当な年寄りに見られているのだなと思ったが、柏氏も私の息子と同じような年代に見えるのだから当たり前か。写真を撮らせてくれというと、彼はわざわざ駐車場まで帽子を取りに行った。律儀な男らしい。

帰り際、三泊港の豆イカ釣りを見学しようと立ち寄ってみると外国船が停泊して入ることができない。小平町温泉「ゆったりかん」で昼食をとり、お風呂に入ってから昼寝

を楽しみ、午後4時にその場を後にした。帰り際に三泊港をもう一度横目で眺めると、外国船が立ち退き、その代わりに釣り人で溢れかえっていた。



大榎海岸 釣り場より右方向には釣り人がビッシリと並んでいた。釣り場より左方向にはサクラマス狙いのルアーマンが立ち並んでいた。河口で座り込んでいる釣り人が魚を掛けたので行ってみると50cm台のアメマスだった。彼は今シーズン14本のサクラマスを上げたらしい。



6月10日の釣果



和田哲男氏



柏 悠太氏

### 留萌三泊港の豆イカ

6月14日の木曜日、私と息子の休日が重なったので息子を豆イカ釣りに誘った。昨年、全くの初心者ながら豆イカ釣りで賑わった三泊港でおぼれに与りながら二人で42杯の好釣果だった。その再現を目指したのだ。また、自分は息子に運転を任してお酒を楽しみながら釣りをしようという魂胆だ。もちろん、お昼は海岸線での焼き肉と大漁の豆イカの刺身を肴にしながらビールとウーロン茶で乾杯といきたいものだ。

午前3時、三泊港に着いたが人影はまばらである。平日に加えて今年の釣果は不振だというのだ。それでも昨年の豆イカ釣りの為に新調したルアー竿とリールを準備して、その一投を息子に託す。昨年の私は、シャケ釣り用の竿で間に合わせていたのだが、今年は40年以上も前のルアー竿とリールとを物置の隅から引っ張り出してみた。ルアー竿はグラス製で柔らかく豆イカ釣りの微妙なアタリにも反応し、くい込みも大変良いと思われる。リールは今でいうベイトリールとスピニングリールをミックスしたような構造になっているもので、自分としては大変扱いやすいものだった。その竿とリールは、その当時、溪流でのルアー釣りの真似事をしてみようと購入していたものだが、海釣りを始めた頃のサロマ湖のクロガシラ釣りでも素晴らしい成績を収めていたのだ。舟釣りなのだが、並み居るベテラン揃いの中で、初心者の私にも40cmクラスのクロガシラを何枚も釣らしてくれた。当時でも絶版になっていた代物で、ベテラン達には譲って欲しいと言われたが、手放せな

かったのだ。しかし、釣り会に入ってからはその竿やリールとも疎遠になっていた。リール糸は5号ほどのナイロンだったので、それに1.2号のナイロンを巻いてもらった。

豆イカ釣りの方は、付近の釣り人と同じで全く釣果がない。仕掛を取っ替え引っ替えしながら何とか粘ったのだが駄目である。午前8時頃になって、隣の釣り人が1杯上げ、息子も「なんか来たみたいだよ」とようやく豆イカを釣り上げた。それをあたかも私が釣ったように写真に収めてから、予定通り雄冬岩老の防潮堤の上で焼肉を楽しんだが、残念ながら大漁に乾杯とはならなかった。



息子が釣った豆イカ。落としてしまって石炭の粉が付いてしまった。



40年以上も前に購入した竿とリール。大活躍するはずだったが・・・このリールをご存知の方はもういないだろう。



日方泊トンネル前の路肩に駐車して焼き肉を楽しむ。工事関係者が調査に来ていて、このトンネルをつなげてしまうのでこの場所を使うのは最後になるということだ